

ACCESS

取扱説明書

AC-ZRX

EVS503-00

ご使用前には必ず取扱説明書をよくお読みください。

2018/12/25

販売会社

製造元 **株式会社アクセス**

〒400-0048 山梨県甲府市貢川本町 5-15

お問合せ

フリーダイヤル 0800-800-5224

平日 9:00 ~ 18:00 までにお問合せください。

はじめに

お買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買い上げいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。

注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買い上げいただいた販売店から「取扱説明書」「車輛受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- ・車の正しい取り扱い方法
- ・日常点検、定期点検整備
- ・保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しくください。

※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために ……………	1-1	運転操作 ……………	7-1
あなた自身のために……………	1-1	発進の準備……………	7-1
歩行者と他の車のために……………	1-3	発進……………	7-2
環境との調和のために……………	1-3	加速と減速……………	7-3
交換部品と運搬……………	1-4	駐車……………	7-4
安全な充電とバッテリー取り扱い の注意……………	1-4	点検整備 ……………	8-1
各部の名称 ……………	2-1	点検整備の実施……………	8-1
前後面……………	2-1	モーター異音の点検……………	8-3
側面……………	2-2	低速、加速の状態の点検……………	8-3
運転装置と計器類……………	2-3	タイヤ……………	8-4
車両の特徴 ……………	3-1	ブレーキの遊び、きき具合の点検…	8-6
主な特徴について……………	3-1	ブレーキパッドの摩耗点検……………	8-7
走行距離の目安……………	3-1	車体各部の給油脂状態の点検……………	8-7
バッテリー残圧の目安……………	3-2	運行において異常が認められた 箇所の点検……………	8-7
各部の取り扱いと操作 ……………	4-1	灯火装置および方向指示灯の点検…	8-7
キーの取り扱い……………	4-1	充電器のコードと各プラグの点検…	8-8
メインスイッチ……………	4-1	バックミラー……………	8-9
表示灯……………	4-3	こんなときは……………	8-10
ハンドル周辺のスイッチ……………	4-4	お車の手入れ ……………	9-1
日常点検 ……………	5-1	洗車……………	9-1
日常点検の実施……………	5-1	保管のしかた……………	9-3
日常点検箇所／点検内容……………	5-1	ユーザー情報 ……………	10-1
バッテリーの充電 ……………	6-1	車両を廃棄する場合は？……………	10-1
充電の開始……………	6-1	車両情報……………	10-1
充電の進行状態の表示……………	6-3	製品仕様 ……………	11-1
充電の終了……………	6-3		
充電する場所……………	6-4		
充電時間……………	6-6		
バッテリーの知識……………	6-6		

安全運転のために

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守るだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

安全運転は正しい服装から

靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

日常点検を必ず行う

事故や故障を防ぐため、日常点検を行ってください。

車の異状

異音がしたり、異臭や異常な振動があるときは、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行すると、モーターが停止するだけでなく、漏電やショートなどの故障の原因となります。やむをえず、冠水した道路を走行し、水に浸ってしまったときは、販売店または整備工場ですべて点検・整備を受けてください。

安全運転のために

両手でハンドルを握る

運転するときは、両手でハンドルを握ります。

押して移動するときはメインスイッチを OFF にする

車から降りて押して移動するときは、メインスイッチを OFF にしてください。

乗車定員

乗車定員を超えて人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。

急激なハンドル操作はしない

急激なハンドル操作は横すべりの原因となります。絶対にしないでください。

むやみに部品の取り外しはしない

むやみに部品の取り外しはしないでください。事故や故障の原因となることがあります。

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。

安全運転のために

他の人への思いやり

- ・ 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- ・ 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。また、歩行者や自転車のおそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

歩行者と他の車のために

駐車

- ・ 盗難予防のため、車から離れるときは必ずキーをお持ちください。
- ・ 駐車禁止違反にならず、交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- ・ 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。



走行直後はモーターやブレーキ関係の部品に直接触れないでください。高温になっていて、ヤケドするおそれがあります。

環境との調和のために

違法改造はしない

違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。

環境への配慮

廃車をするときや、寿命がきてバッテリーの交換が必要になったときは、環境保護のためお買いあげの販売店にご相談ください。

安全運転のために

交換部品と運搬

アクセサリや交換部品は純正部品を使用する

警告

タイヤなどの消耗品やアクセサリなどの部品は、販売店にご相談のうえ、必ず純正部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用しますと、事故によるケガや故障の原因になることがあります。また、保証の適用が受けられない場合があります。

安全な充電とバッテリー取り扱いの注意

- ・雨や水などが当たらない場所で充電してください。感電や発熱・発火につながります。
- ・漏電遮断器に接続された家庭用コンセントに電源プラグを接続して充電してください。正しく接続されていないと、感電や発熱・発火につながります。
- ・充電コードや各プラグに変形や傷付きがあるときは、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。感電や発熱・発火につながります。

警告

充電ソケットを針金などでショートさせると、感電や故障、発熱・発火につながります。

安全運転のために

警告

充電するときは、必ず専用電源コードを使用してください。

バッテリーなどが損傷するおそれがありますので、専用充電器以外は絶対に使用しないでください。

警告

専用充電器を水没させたり、濡れる場所に放置しないでください。バッテリーや充電器を破損させたり、感電や火災につながります。水が入ったと思われる場合は、必ず販売店で点検を受けてから使用してください。

警告

タコ足配線で充電をしないでください。

警告

- ・充電器や各プラグの改造、分解はしないでください。火災、感電、ショートの原因となります。
 - ・車体が大きく破損、変形しているときは感電のおそれがあります。バッテリーや電気配線に触れないでください。
-

安全運転のために

警告

- ・バッテリーを分解しないでください。
 - ・バッテリーを加工、改造しないでください。
 - ・異なった種類のバッテリーと接続しないでください。
 - ・バッテリーを他の用途に使用しないでください。
 - ・バッテリーを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
 - ・故障したバッテリーは使用しないでください。その他の部品の故障の原因となります。
 - ・バッテリーのコネクタに針金などを入れてショートさせると、感電または故障のおそれがあります。
-

警告

充電中の専用充電器に長時間皮膚の同じ場所で触れないでください。

専用充電器は充電中に発熱し、高温になる場合があります。充電中の専用充電器に長時間皮膚の同じ場所で触れていると、低温やけどのおそれがあります。

警告

専用充電器にカバーをしたり、上に物を置かないでください。また、複数の専用充電器を重ねたり密着させて使用しないでください。専用充電器は冷却のためファンが作動していますので、内部が発熱し、充電できなくなることがあります。

各部の名称

前後面



1. ヘッドライト
2. スモールランプ
3. ウィンカー

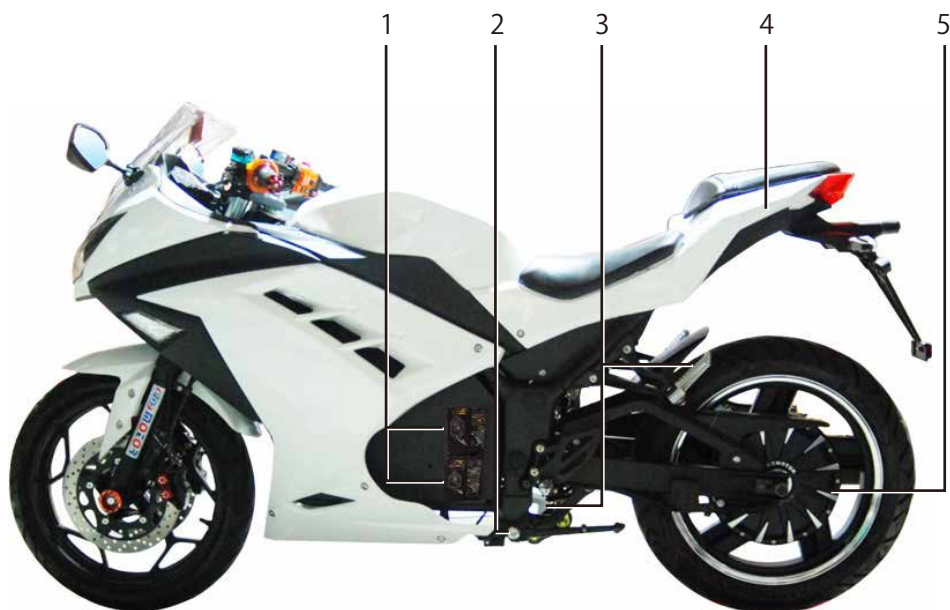
→4-4「ハンドル周辺のスイッチ」参照



4. ブレーキランプ
5. ウィンカー

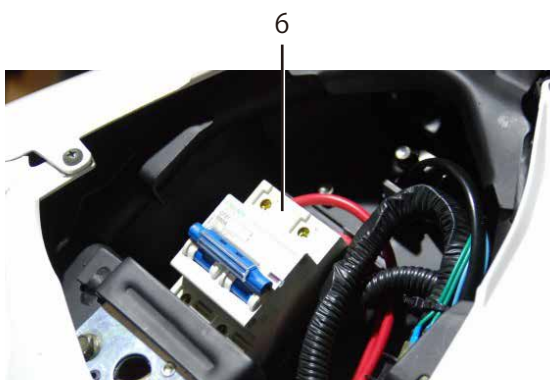
各部の名称

側面



- 1. 充電ソケット
- 2. サイドスタンド
- 3. サイドステップ（前・後）

- 4. スタンディングハンドル
- 5. モーター



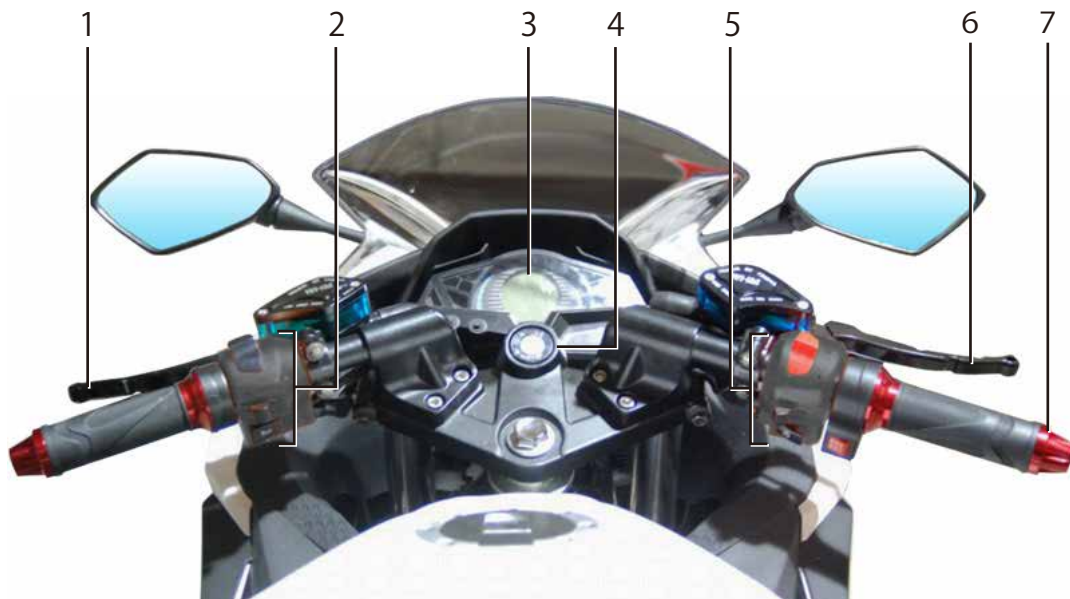
- 6. メインブレーカー（リアシート下）



- 7. リアシートロック

各部の名称

運転装置と計器類



1. リアブレーキレバー

→7-1「発進の準備」参照

2. ハンドルスイッチ（左）

→4-4「ハンドル周辺のスイッチ」参照

3. メーター

→4-3「表示灯」参照

4. メインスイッチ

→4-1「メインスイッチ」参照

5. ハンドルスイッチ（右）

→4-4「ハンドル周辺のスイッチ」参照

6. フロントブレーキレバー

7. スロットルグリップ

→7-3「加速と減速」参照

車両の特徴

主な特徴について

本車両は、以下の特徴があります。

- ・走行に必要なエネルギーは電気のみを使用し、燃料やエンジンオイルの交換を必要としません。
- ・高性能モーターの採用により、走行中の騒音・振動を大幅に抑えるとともに快適な走行が楽しめます。
- ・家庭用コンセント（AC100V）から充電することができます。

走行距離の目安



1回の充電で走行できる距離は、以下のような走りかたや道路状況などにより異なります。

発進・停止の回数、車載重量、坂の勾配、路面の状態、風向き、風速、気温、充電状態、バッテリーの性能低下、タイヤの空気圧低下など。

一充電あたりの走行距離：約 60km ※

※ 定められた試験条件（車速 30km/h での定地走行テスト）のもとでの値。
走行時の気象、道路、整備などの諸条件により異なります。

- ・バッテリーの特性上、気温の変化（バッテリー温度の変化）により、走行できる距離が短くなる場合があります。
- ・車両の負荷（乗員の体重や荷物など）が 10kg 増加すると、走行できる距離が 5～10%短くなります。

車両の特徴

バッテリー残圧の目安

バッテリー残圧表示計の見かた

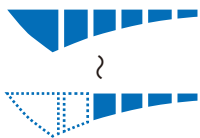


メインスイッチを ON にすると、バッテリー残圧表示計を表示します。

※バッテリー残圧表示は、停車時と走行時で変わります。走行時の残圧表示を確認してください。



バッテリー残圧表示計

バッテリー残圧の目安

走行中のバッテリー残圧表示	バッテリー残圧の状態
	走行可能です。
	登坂力などが低下します。 早めに充電してください。
	ただちに充電してください。



・バッテリー残圧表示計の目盛りは、バッテリー残量ではなく電圧を表しています。あくまでも目安としてください。



バッテリーは、50%以上放電した状態で放置すると劣化が進みます。劣化を防ぐために、乗ったらすぐに充電することを心がけてください。毎回の使用後、ただちに充電することをおすすめいたします。



本車両に搭載されているバッテリーは、使い切らずに追加充電しても、劣化はいたしません。

各部の取り扱いと操作

キーの取り扱い

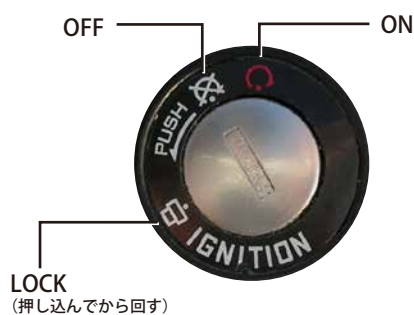
- ・キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、十分に注意してください。
- ・キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- ・1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- ・キーを2本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。

注意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。

キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

メインスイッチ



メインスイッチは、電源の「入/切」、ハンドルロックの操作を行います。

警告

走行中にメインスイッチを OFF の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

各部の取り扱いと操作



盗難予防のため、車から離れるときは、ハンドルロックをかけ、必ずキーをお持ちください。

ON

全ての電気回路に電源が供給されます。全てのメーター表示部を数秒間表示し、ヘッドライト、テールランプとメーター灯が点灯します。キーを抜き取ることはできません。

OFF

全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

LOCK

ハンドルを左に切り、キーを1回押し込んでから回すことで、ハンドルロックがかかります。キーを抜くことができます。



ハンドルロックがかかりにくい場合は、ハンドルを少し右に戻してロックしてください。

ハンドルロックを解除しにくい場合は、ハンドルを少し左右に動かして解除してください。

各部の取り扱いと操作

表示灯



- 1. バッテリーメーター
- 2. スピードメーター
- 3. 方向指示器表示灯

- 4. ハイビーム表示灯
- 5. 最高速度表示灯
- 6. 走行距離計

バッテリーメーター

バッテリー残圧が表示されます。

スピードメーター

デジタルでスピードが表示されます。

方向指示器表示灯 “◁/▷”

方向指示器に合わせて点滅します。

ハイビーム表示灯 “≡D”

ヘッドライト点灯時（上向きするとき）に点灯します。

最高速度表示灯

設定中の最高速度が3段階で表示されます。

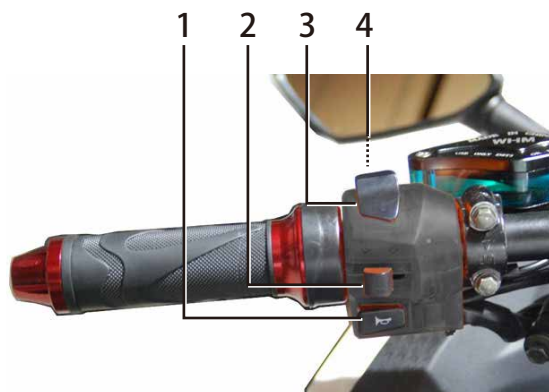
走行距離計




走行距離が表示されます。

各部の取り扱いと操作

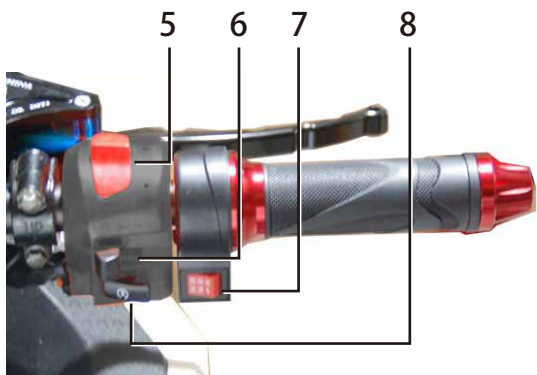
ハンドル周辺のスイッチ



<左>



1. クラクション “”
2. 方向指示器スイッチ “”
3. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “”
4. パッシングスイッチ

<右>



5. キルスイッチ “”
6. ヘッドライト切り替えスイッチ “”
7. 最高速度切り替えスイッチ
8. バックスイッチ

クラクション “”

押すとクラクションが鳴ります。



必要なときにのみ使用してください。

方向指示器スイッチ “”

進路変更の合図に使用します。

各部の取り扱いと操作

警告

方向指示器は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。
点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

ヘッドライト上下切り替えスイッチ

ヘッドライトの上向き／下向きを切り替えるスイッチです。

☉ (上向き)：遠くを照らします。

☉ (下向き)：近くを照らします。



先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

キルスイッチ " ⌘ "

モーターを OFF にします。

転倒など緊急時に使用してください。

警告

転倒などの緊急時以外には、キルスイッチを押さないでください。思わぬ事故につながる可能性があります。

各部の取り扱いと操作

ヘッドライト切り替えスイッチ "・ / ☺ / ☼"

スモールランプ、ヘッドライトを点灯します。

・ : 消灯します。

☺ : スモールランプが点灯します。

☼ : ヘッドライトが点灯します。

注意

走行時はヘッドライトを点灯してください。

最高速度切り替えスイッチ

最高速度を3段階に切り替えます。

バックスイッチ

スイッチを押しながらスロットルグリップを操作すると後進します。

日常点検

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

警告

- ・日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- ・異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。



点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、8-1 ページ以降の点検整備の方法を参照してください。

ブレーキ	<ul style="list-style-type: none">・ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキの効きが充分であること。
タイヤ	<ul style="list-style-type: none">・タイヤの空気圧が適当であること。・亀裂、損傷がないこと。・異常な摩耗がないこと。・溝の深さが充分あること。(※)

日常点検

モーター	<ul style="list-style-type: none">・モーターに異音がないこと。(※)・低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	<ul style="list-style-type: none">・点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	<ul style="list-style-type: none">・当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車など）に実施をしてください。

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容は販売店にご依頼ください。点検・整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- ・点検・整備をするときは、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。感電やショートにつながる可能性があります。
- ・点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、サイドスタンドを立てて行ってください。
- ・走行直後は、モーターなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- ・走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- ・異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。

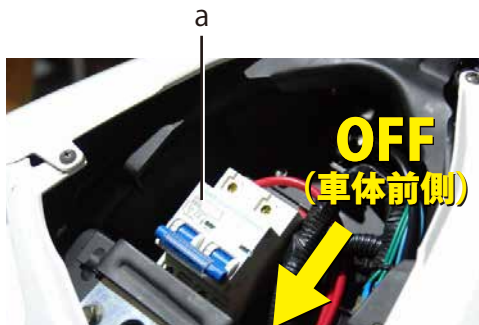
バッテリーの充電

充電の開始

1. リアシートを開き、メインブレーカー (a) が **OFF** になっていることを確認します。



リアシートロック

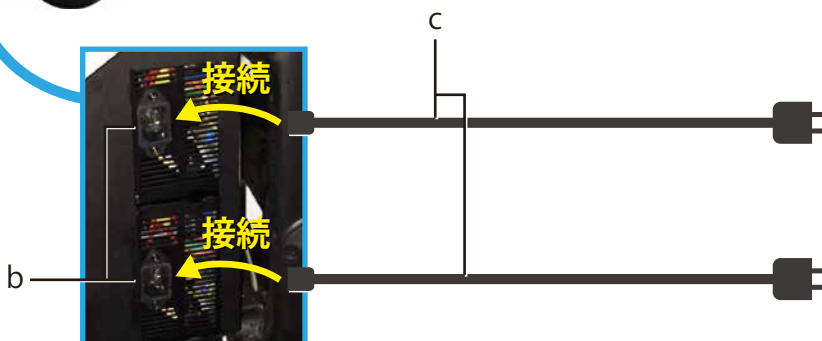


a. メインブレーカー

2. 充電ソケット (b, 2ヶ所) に、専用充電コード (c, 2本) を接続します。

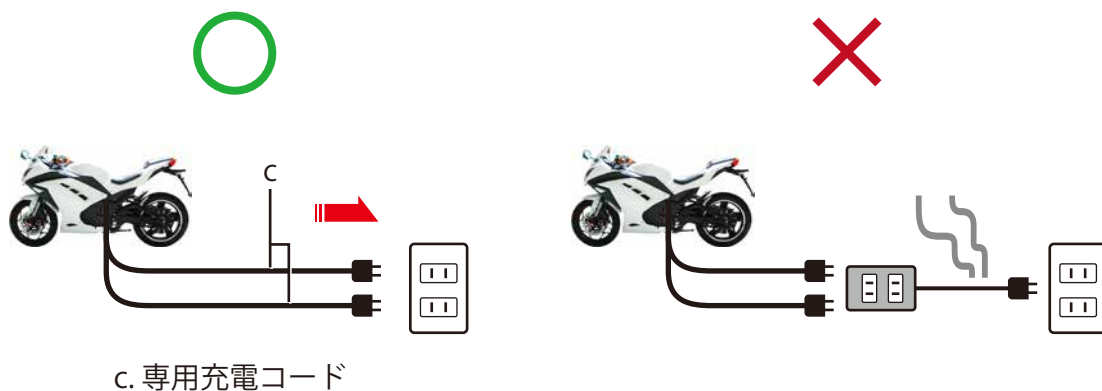


b. 充電ソケット
c. 専用充電コード



バッテリーの充電

3. 専用充電コード (c)2本を、それぞれ直接 (またはそれぞれ延長して)、家庭用コンセント (100V) に差し込むと、自動的に充電が始まります。



警告

2本の電源コードをマルチタップ等でまとめて接続すると、コードが焼き切れるおそれがあります。

コードを延長する場合は、必ず2本別々に行ってください。



※充電が開始すると、内蔵充電器の充電確認ランプ (d, 2ヶ所) が点灯します。



バッテリーの充電

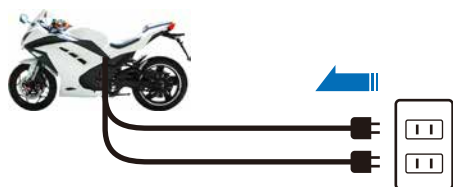
充電の進行状態の表示

充電中は充電状態を内蔵充電器の充電確認ランプ（2ヶ所）に表示します。

充電の進行状態	充電確認ランプ
充電中 (0% ~ 99%)	 赤ランプ点灯
充電完了	 緑ランプ点灯

充電の終了

1. 充電が終了したら、専用充電器の電源コード2本を家庭用コンセントから抜きます。
2. 車体の充電ソケットから充電コードを取り外します。



バッテリーの充電

充電する場所

充電時間は充電環境に左右されます。また、充電環境が悪いとバッテリーや充電器の故障の原因となります。下記の諸条件を満たす場所を選んで充電してください。

- ・電源プラグ、充電器が雨や水に濡れないところ。
- ・直射日光が当たらない、涼しいところ。
- ・風通しがよく、湿気のないところ。
- ・幼児やペットなどが充電コード、電源プラグにいたずらをしないところ。
- ・充電中の環境温度が 0° C ~ 30° C の範囲内の場所。(15° C ~ 25° C を推奨)
- ・コードをはさんだり、踏んだり、引っ張ったりするおそれのないところ。

充電おすすめ場所の参考例

- ・日陰で涼しく、風通しのよい場所



直射日光が当たらない、風通しのよい涼しい場所で充電してください。



- ・充電に最適な環境温度は約 15° C ~ 25° C です。
-

充電に適さない場所、充電方法

- ・直射日光が当たる場所や暖房器具の近くでの充電
- ・長い距離を走行した直後の充電
- ・充電途中でバッテリーが規定の温度を越えるとバッテリーの劣化に影響しますので、充電はできるだけ涼しい場所で行ってください。

バッテリーの充電

警告

- ・感電など充電中の事故を防ぐため、以下の内容を守ってください。
 - ≫雨や水に濡れるところでは充電しないでください。
 - ≫電源プラグに、ほこり、ゴミ、土、油、水などが付着しないようにしてください。
 - ≫濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。
 - ・幼児や、ペットなどの動物がいたずらするところでは充電しないでください。予想外の行動により、危害を受けたり火災になるおそれがあります。
 - ・ガソリンなどの引火物の周辺で充電しないでください。火災の原因となります。
-

注意

- ・ご使用にならないときは、電源プラグを家庭用コンセントにつないだままにしないでください。ホコリや異物の蓄積が感電、発熱、発火の原因となります。また、落雷などによる故障のおそれがあります。ご使用にならないときは、安全のためコンセントから電源プラグを抜いてください。
-

注意

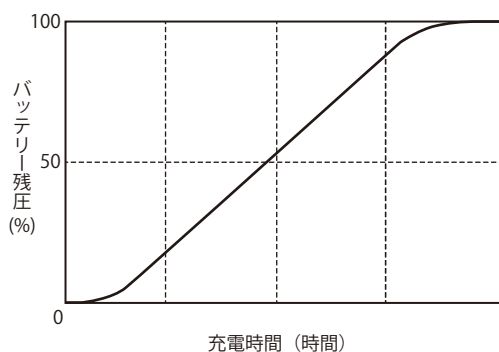
- コードの取り扱いは充分注意してください。
 - ドアやサッシで充電コードをはさみ込まないでください。
 - 充電コードを強く曲げたり、上に物を置かないでください。
-

バッテリーの充電

充電時間

充電時間は、充電前の走行状態やバッテリー残圧・外気温により異なります。

充電時間の目安
(残圧 0% から) :
約 5 時間



充電過程のイメージ

本車輛の専用充電器は、バッテリーに負担をかけないように、バッテリー残圧に従い電流を制御して充電を行います。

バッテリー残圧	充電イメージ
0 ~ 20%	ゆっくり
20 ~ 80%	最大
80 ~ 100%	ゆっくり

バッテリーの知識



- ・ 充電前にバッテリーを使い切る必要はありません。
- ・ 使用年月や使用条件により徐々に放電容量が低下します。
- ・ 外気温により性能が変化することがあります。低温時は常温時に比べて、一充電あたりの走行距離が短くなり、また充電時間が長くなります。低温時は常温時に比べて放電容量が低下し、一充電あたりの走行距離が短くなりますが故障ではありません。
- ・ 極端に高温または低温の場所でお車を保管すると放電容量が低下することがあります。
- ・ 使用しなくても徐々に放電し、バッテリー残圧が減っていきます。
- ・ 常温と比較して、低温状態では放電容量がやや下がります。

バッテリーの充電

注意

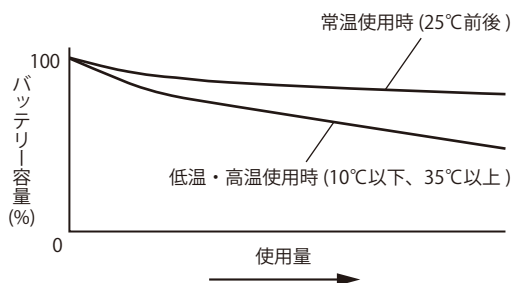
【リチウム電池の保管について】

- ・長期間保管後に使用するときは、使用の前に充電してください。
- ・長期間保管するときは、バッテリー残圧 50 ～ 70% 程度で、15℃～ 25℃ の場所で保管するよう心がけてください。
- ・バッテリー残圧 20% 以下の状態で長期間保管しないでください。バッテリーがダメージを受け、容量が低下します。場合によってはバッテリーの交換が必要となります。

注意

バッテリーの電圧が極端に低くなるまで放電してしまうと、充電ができなくなり、バッテリーが使用できなくなります。

バッテリー劣化のイメージ



バッテリーは、50%以上放電した状態で放置すると劣化が進みます。劣化を防ぐために、乗ったらすぐに充電することを心がけてください。毎回の使用後、ただちに充電することをおすすめいたします。



本車両に搭載されているバッテリーは、使い切らずに追加充電しても、劣化はいたしません。

運転操作

発進の準備

1. メインブレーカー (a) を ON にします。



a. メインブレーカー

2. 車の左側に立って左手でハンドルを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちます。
3. サイドスタンドを戻します。

警告

サイドスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

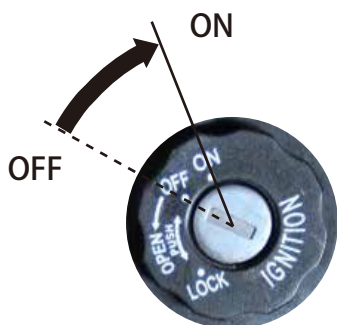
4. シートに座ります。このとき、車が倒れないように左足で支えます。
5. 車が動き出さないように、左手でリアブレーキレバーをしっかり握ります。

警告

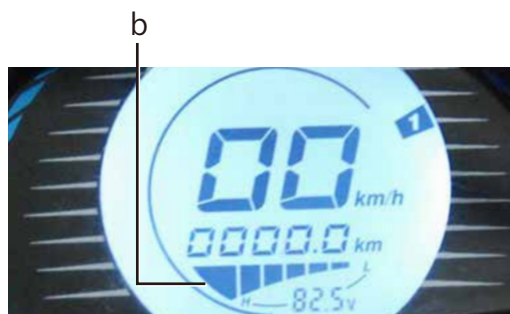
飛び出し防止のため、必ずリアブレーキを作動させてください。

運転操作

2. メインキーを ON の位置まで回します。



3. バッテリー残圧表示計 (b) でバッテリー残圧が充分であることを確認します。



b. バッテリー残圧表示計

発進

1. 右側の方向指示器を点灯し、発進の合図をします。

2. 前後左右の安全を確認します。

3. リアブレーキレバーから手を離し、スロットルグリップをゆっくり回し発進します。



スロットルグリップを急激に回すと、急発進して危険です。

4. 方向指示器を消灯します。

運転操作

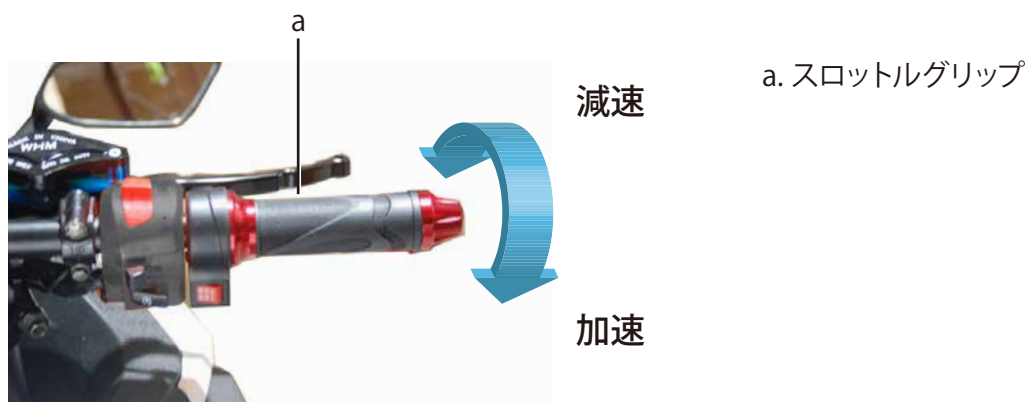
加速と減速

スロットルグリップによる速度調節

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉じたりして行います。

速度を上げるには、スロットルグリップを手前に回します。

速度を落とすには、スロットルグリップを奥に回します。



ブレーキによる減速

1. スロットルグリップを完全に戻します。
2. ブレーキレバーを徐々に握ります。

運転操作

警告

- ・急なブレーキ操作は避けてください。横すべりの原因となります。
 - ・踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
 - ・濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
 - ・下り坂でのブレーキ操作は困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
 - ・連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。
-

駐車

車を離れるときは、盗難予防のためハンドルロックをかけ、必ずキーをお持ちください。

警告

- ・駐車禁止違反にならず、交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
-

点検整備

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。

警告

- ・点検整備を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
 - ・安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容は販売店にご依頼ください。
 - ・点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - ≫点検は平坦で足場のしっかりした場所を選んで行ってください。
 - ≫走行直後は、モーターなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
 - ≫走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - ≫異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。
-

点検整備



警告

走行直後はブレーキ関係の部品やモーターまわりに直接触れないでください。ブレーキディスク、モーターなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品やモーターが十分に冷えてから行ってください。



- ・点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります）
 - ・点検の記録は廃車されるまで保存してください。
 - ・メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。
-

点検整備

モーター異音の点検

モーターまわりから異音がしないかを点検します。

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- ・メインスイッチを OFF にした状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。
- ・スロットルグリップまわりに劣化や損傷などがいないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。

警告

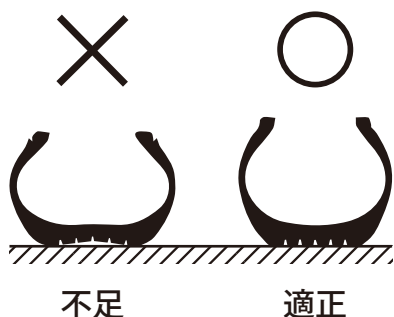
スロットルグリップの作動に異常があるときは、早めに販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

1. 左手でリアブレーキレバーを握ります。
2. メインスイッチを ON にします。
3. ブレーキレバーを離します。
4. スロットルグリップを徐々に回して加速したとき、スロットルグリップもモーターもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき異常を感じたら、販売店で点検・整備を受けてください。

点検整備

タイヤ

空気圧



タイヤ空気圧

前輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪：

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。この車はチューブレスタイヤを装着しています。



- ・タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- ・空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

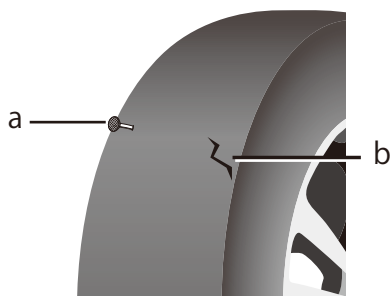
タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

点検整備



- a. 異物（釘、石など）
- b. 亀裂、損傷



道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

警告

- ・タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。
- ・過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- ・タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ

前輪：110/60-17

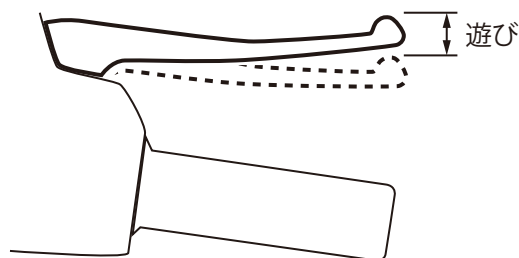
後輪：140/60-17

点検整備

ブレーキの遊び、きき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



ブレーキレバーの遊び
10.0 ~ 20.0 mm

点検の結果調整が必要な場合は、調整を依頼してください。

! 警告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、ブレーキを作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、販売店で点検・整備を受けてください。

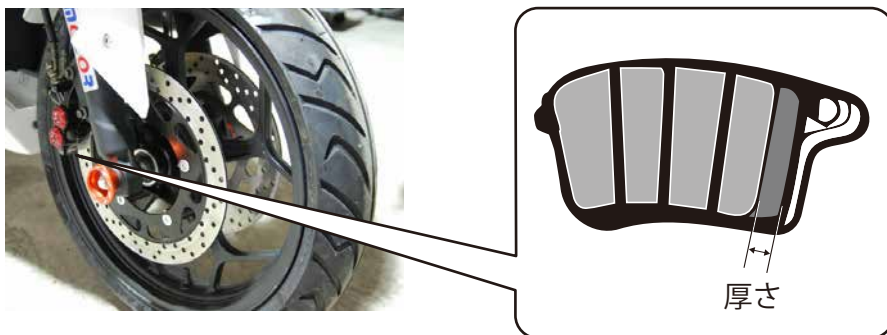
! 警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

点検整備

ブレーキパッドの摩耗点検

ブレーキパッドの厚さが新品時の 1/2 以下になると、ブレーキパッドの使用限度です。販売店で交換・整備を受けてください。



ブレーキパッド
(イラストは実際の形状とは異なります)

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、販売店で点検・整備を受けてください。

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

灯火装置および方向指示灯の点検

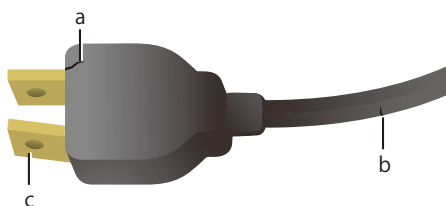
メインスイッチを ON にします。
・ライトスイッチを ON にし、ヘッドライト、テールランプが点灯するかを点検します。同時にヘッドライト上下切り替えスイッチを操作し、上向き、下向きに切り替わるかも点検します。

点検整備

- ・ブレーキレバーを操作し、ブレーキランプが点灯するかを点検します。
- ・方向指示器スイッチを操作し、左および右の方向指示灯が、前後同時に点滅するかを点検します。
- ・レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

充電器のコードと各プラグの点検

- ・コードおよび各プラグに亀裂や割れ、変形などの損傷がないことを点検し、異常がある場合は充電操作を絶対に行わず、販売店に整備を依頼してください。
- ・コードおよび各プラグに汚れや異物の付着がないことを点検し、付着している場合は乾いた布でふき取ってください。



- a. 割れ
- b. 亀裂
- c. 変形

! 警告

- ・電源プラグをコンセントに差し込んだ状態で点検・整備をしないでください。感電やショートのおそれがあります。
 - ・充電コードや各プラグが損傷、変形している場合は、必ず新品に交換してください。感電やショートによる火災のおそれがあります。
-

注意

点検時に充電コードや各プラグに防錆剤、有機溶剤や油脂類などが付着しないようにしてください。

点検整備

バックミラー

バックミラーの脱着、調整のしかた

取り付けねじ
(六角 5mm)



調整ねじ
(六角 6mm)

- ・バックミラー取り付け、調整は、それぞれ上記の工具で行います。

注意

ミラーの調整は、運転姿勢をとったとき、確実に後方を確認できるように行ってください。

点検整備

こんなときは

こんなときは、販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

電源が入らない（液晶パネルに何も表示されない）ときは？

1. メインブレーカーが ON になっていますか？

リアシートを開けて、メインブレーカーを ON にしてください。

2. バッテリー残圧はありますか？

バッテリー残圧がないときは充電してから使用してください。

以上のことを確認しても電源が入らないときは・・・

販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の項目を確認してください。

1. メインスイッチが ON になっていますか？

2. 各スイッチを作動させていますか？

以上のことを確認しても、ランプ類が点灯しないときは・・・

ランプの球切れが考えられます。11-1 ページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

点検整備

走行中にモーターが止まったときは？

次の項目を確認してください。

1. バッテリー残圧はありますか？

バッテリー残圧表示灯でバッテリー残圧を確認してください。バッテリー残圧がないときは充電してから使用してください。

以上のことを確認しても、モーターが回らないときは・・・

販売店で点検・整備を受けてください。



この車両を押して移動する場合は、メインスイッチを OFF にしてください。

メインスイッチが ON のときに各部が動作しなくなったときは？

次の項目を点検してください。

1. バッテリー残圧はありますか？

バッテリー残圧がないときは充電してから使用してください。

2. キルスイッチは「入」になっていますか？

キルスイッチが「切」になっているときは、「入」にしてください。

以上のことを確認してから再度メインスイッチを ON にしてください。

再度メインスイッチを ON にしても動作しないときは、販売店で点検・整備を受けてください。

充電器を接続しても充電できないときは？

1. メインブレーカーが ON になっていますか？

メインブレーカーを ON にしてください。

点検整備

充電器から異臭、煙がでるときは？

コンセントから電源プラグを抜き、ただちに使用を中止してください。販売店で点検・整備を受けてください。

1回の充電で走れる距離が著しく短くなったときは？

バッテリーの寿命です。

販売店でバッテリーを交換してください。バッテリー交換は有料です。

漏電遮断器が作動して充電ができないときは？

充電操作を止めて、販売店で点検・整備を受けてください。

お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください

注意

- ・マット塗装部分は、洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ・マット塗装部分は、ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- ・マット塗装部分は、コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- ・中性洗剤を使用して洗車した後、十分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- ・洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- ・車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

お車の手入れ



※充電器があります。側面から水が入らないように注意して下さい。

警告

- ・洗車する際は、室内に水が入らないようにご注意ください。
- ・洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾かしてください。
- ・コードやプラグは水で洗わないでください。汚れたときは、乾いた布でふき取ってください。

注意

- ・スロットル、電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- ・ヘッドライト、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
- ・高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

お車の手入れ

・ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品は、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。



洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

保管のしかた

保管場所

保管場所は慎重に選びましょう。

- ・平坦で安定のよいところ。
- ・風通しがよく、湿気のないところ。
- ・雨つゆや直射日光が当たらないところ。
- ・車はできるだけ敷地内に保管してください。



保管方法

- ・盗難予防のため、車から離れるときはハンドルロックをかけ、必ずキーをお持ちください。
- ・屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはモーターが冷えてからかけてください。

お車の手入れ

長期保管するときは

注意

6-5「バッテリーの知識」の項目に従って、バッテリーを充電してください。バッテリーは、完全に放電してしまうと再充電して使用することができなくなる場合があります。

・保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。

長期間保管して再使用するときは

- ・長期間（1か月以上）保管して再び使用する場合は、必ず充電をしてから使用してください。（通常の充電よりも若干時間がかかる場合があります。）
- ・走行前に、各部の点検をしてください。
- ・充電する前に、バッテリーと充電器の点検をしてください。

ユーザー情報

車両を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される車両がある場合は、ナンバープレートを管轄する市区町村の役所で廃車手続きを行ってください。

車体は解体業者などに依頼し、解体（スクラップ）してもらってください。

車両情報

車台番号



ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

製品仕様

EVS503-00(AC-ZRX)

全長 / 全幅 / 全高	2,030/710/1,150mm
最低地上高	295mm
車両重量	112kg (バッテリー含む)
車両総重量	282kg
乗車定員	2名
一充電走行距離	約 60km (30km/h 定地走行)

定格出力 / 最高出力	5,000W/6,000W
最高速度	85km/h
ブレーキ	前輪：W ディスク式 後輪：ディスク式
タイヤ	前輪：110/60-R17 後輪：140/60-R17
バッテリー	リチウム電池 72V/40Ah

交換パーツなど

ヘッドライト	専用 LED
スモールランプ	専用 LED
テールランプ	専用 LED
ブレーキランプ	専用 LED
方向指示灯 (前)	専用 LED
方向指示灯 (後)	専用 LED

ライセンス灯	専用 LED
タイヤ空気圧 (冷間時)	前輪：225kPa 後輪：250kPa
ヒューズ	メイン 80A 2way DC-DC コンバータ 15A